

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、三和圏域） 第3回会議 議事録

開催日時	令和6年2月20日（火）9時半から11時まで
参加者	委員：9人 事務局：4人 その他：5人（中央福祉事業所・地域包括支援センター） 飯田地区社協支援部：2名
場所	白脇協働センター ホール
内容	<p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶 飯田・白脇地区生活支援体制づくり協議体 会長</p> <p>3. 協議内容</p> <p>①前回の振り返り</p> <p>第2回飯田・白脇地区生活支援体制づくり協議体について振り返りをした。また、他圏域の協議体で議論されている内容について共有をした。</p> <p>②【情報共有】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜松市内の地域たすけ合い支援事業一覧について 「令和5年度地域たすけあい支援事業一覧」を用いて市内で行われている家事支援を共有し、サービスや対象を絞って活動している地区社協があることを示した。 ・中学生と協働した地域活動について 報告 白脇地区社協会長より、白脇地区で今年度開催し、中学生も参加した「グラウンドゴルフ」「白脇まつり」「冬フェスタ（ミニ運動会）」について報告していただいた。 <p>③【意見交換】</p> <p><飯田地区></p> <p>■家事支援について協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状の確認を行った。来年度以降に着手することを検討しているが実際に話を行うが出来ている訳ではないと確認が出来た。 ・今までの話し合いの中では支援部が主体的に行っていく予定であったが支援部だけで進めるのには負担がかかってしまう不安がある。今後の活動についても協力員を募る必要があると感じる。 ・包括三和より家事支援が地域内であったことで良かった事例の共有を行った。また介護サービス導入のきっかけづくりやヘルパーではお酒等を買うことが出来ない等と

いった介護保険サービスでは利用出来ない部分があることを説明。

- ・様々なところにケアマネの事業所があるので地域のケアマネが見えない高齢者ニーズを知っていると思う。地域の会議でケアマネに参加をしていただき、実情を話していただくことが出来るのではないかと意見があった。⇒包括三和で協力をいただくように要請をすることは出来る。

- ・家事支援を行うことによってケアマネ等の仕事を奪うことになってしまうのではないかと。⇒地域での利用出来る資源の選択肢が増える、ヘルパーでも出来ない部分はあるのでそのような時に困っている人がいれば利用することが出来ると思う。特にケアマネの仕事の奪ってしまうといったことはないことを説明。

- ・ゴミの日にゴミを出せない人がいる。週1でヘルパーを入れているとゴミ出しの日には合わない等といったことがあるので困り感があるのではないかと。地域によってだが近所の人が助け合いで行っているケースが多い。ゴミ出しや買い物も今のところ何とか対応をしている。(民生委員)

- ・助け合いのコミュニティを崩すことになるのではないかと。⇒アパートや新しく越してきた人が多いような地域では地域とのつながりもないので利用が必要になるのではないかと。

- ・包括でケアマネに頼むようなケースもあるが町内では多くが病院から直接ケアマネにつくこともあるので包括も民生委員も把握が出来ていないことも。(民生委員・包括)

- ・実際に家事支援を行うにあたって当初より協議をしているがどれだけの相談が来るのかわからないこともあるので広く周知を行うよりも小さく行っていく必要がある。地域ごとに困りごとの違いもあるので【サービスを限定して始める・地域を絞る・対象を限定する・相談を専門機関のみに】といった負担がかからないようなやり方が必要になるのではないかと。

- ・入り口としてどこから始めていくのが良いかと協議をしていく必要がある。

- ・今後の検討として料金設定が無料だと頼みづらくなるのではないかと。料金設定は最初から有償より無償で行うことも考えられる。お互い様の活動になるので有償で行うことに疑問を感じる。⇒料金については他地区社協ではゴミ出しや草取りを分けているところもあることを共有。

- ・どのような人たちがスタッフとしてやってもらうのか。⇒支援部のみでは進まないような気がする。意欲のある人を募ることが必要、また自治連との連携が必要。

■今後の方向性

- ・まずはメニュー等を決める為にも地域での困りごとを把握する。そのためニーズ調査を行う。包括三和にはケアマネと連携をしていただく、また民生委員には実態調査

があるのでその際にニーズ調査に協力をしていただくのが良いのではないかな。⇒ケアマネと民生委員から協力をしていただけるとの回答があったのでニーズ調査を行う。

・協議体会議以外で家事支援について検討を行う必要がある。役員会のあと支援部のミーティングがあるがその時間を利用するのはどうか。⇒支援部のミーティングは行う事業等の情報共有も兼ねているのであまり時間が取れないかもしれない。別で協議の場を作る必要がある。

<白脇地区>

■ 1年間中学生と一緒に活動を行って

・中学校の教頭先生に沢山ご協力いただいたため活動がしやすかった。学校の先生の協力が必須だと感じる。今後も学校・地域との信頼関係を構築していくことが大事。

・参加者には女性が多く、参加した男性の中には福祉に関心がある子もいた。

・情報周知について課題があるように感じる。R6年度から学校の掲示板で案内をしてくれるとのこと。今後クラスに掲示したり、先生から一言案内をしてもらえたりしたら、参加者が集まるのではないかな。

・継続していくことが大切。3年生は受験などで忙しいため、今はボランティアの対象が2年生。今年度参加してくれた子どもたちは来年活動に参加しないため、地域の行事への参加を増やし、毎年新しい子に参加してもらうことで積み重ねが伝統になればいい。

■ 中学生を交えた今後の活動について

・3世代交流には中学生は抜けてしまいがち。コミュニティスクールから地域とのつながりをつくっていききたい。発散場所がない中学生がいるのでは？

・白脇地区のジージバーバ食堂に中学生に参加してもらったらどうか。お弁当などをお土産に渡すことで来てくれる中学生もいると思う。

・小学校の放課後児童会をもっと地域に開放し、高齢者も利用できるようにするなど他の使い方もできないかな

■ 地域の活動について

・グラウンドゴルフやミニ運動会のように、子どもが参加しやすい、かつ高齢者が体を動かせるような活動は良い。子どもが参加しやすいものを増やしていきたい。親が忙しいために子どもの参加が難しい場合が多い。

・白脇地区は自治会・民生委員・地区社協間の連絡や調整ができているため活動がしやすい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・（自治会）回覧板を回しても全員が見るとは限らないため、回せば良いという訳ではないように感じる。自治会ではホームページを始めた。 ・（民生委員）高齢者宅に友愛訪問をしている。その際にイベントの周知できるのではないか。おばあちゃん、おじいちゃんから孫に情報周知をお願いしてもいいかもしれない。 ・（シニア）70代が10%くらいで会員の高齢化が進んでいるため、地域の活動に参加したくても参加できない人も多い。毎回同じ人が参加している。チラシを見て活動の情報は知っていても、サロンの場所が遠く、移動手段がないことで参加を諦めている人もいる。活動や移動が難しい人ほど地域とのつながりが薄い。 <p>4. 連絡事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度替わりによる所属や役職の変更、協議体委員の継続に関わる調査について <p>5. 閉会 飯田・白脇地区生活支援体制づくり協議体 副会長</p>
<p>今後の見通し等</p>	<p>〈飯田地区〉メニュー等を決める為にもニーズ調査を行い、地域での困りごとを把握するため。また、協議体会議以外で家事支援について別で協議の場をつくる。今までの話し合いの中では支援部が主体的に行っていく予定であったが、支援部だけで進めるのには負担がかかってしまう不安があるため協力員を募っていく。</p> <p>〈白脇地区〉中学生の地域の行事への参加を増やし、毎年参加してもらうことで積み重ねを伝統にしていく。中学生にジージバーバ食堂に来てもらってはどうかという意見が出ていた。今後話が進めば調整をしていく。</p>